

国東半島宇佐地域に対する助言事項

1. GIAHS 地域の更なる保全・活用に向けた総括的助言

- (1) 「クヌギ林とため池がつなぐ農林水産循環」のシステムは、農業遺産に相応しい非常に高い価値を有しているが、水循環がどのようになっているかといった解析の実施は一部の流域に限られている。認定されたシステムの原点に今一度立ち返って、流域ごとの水利システムの解析や栄養循環（森と川の繋がり）を裏付ける客観的なデータを整理し、システムが有する価値を対外的に訴求していくことが望まれる。
- (2) 地域の価値を高め、外部からの客をもてなして地域の活性化を図っていくためには、その前提として地域の人々が豊かな暮らしを営んでいることが必要となる。GIAHS を保全し、活用することは、包括的な豊かさー自然資本が市場価値を超えて教育、健康、文化、生活水準にもたらす豊かさーを次世代に継承していくことである。このようにして形成された地域の人々の豊かな日常生活を核としてツーリズムを実施し、客をもてなしていくことで、地域経済を更に活性化していくことが望まれる。
- (3) 次世代の教育については、既に小・中・高・大学の各段階においてユニークな取組が進められており、GIAHS に対する理解・関心も高まっている。学校教育の場においては、将来の担い手を確保するという観点から、農林水産業に取り組むことの価値をより正しく理解してもらうよう、内容の見直しも含めて更に前進させていくことが重要である。また、良い取組をするためには、良いリーダーが必要であり、今後、様々な分野においてリーダーの育成が重要となる。
- (4) 認定地域間の連携については、食や食文化の情報発信を目的として、熊本県の阿蘇地域との間で女性農業者による交流が行われている。これらに加えて、子供達が他の GIAHS 地域についても学ぶことができれば地元を更に深く理解することにつながり、また、女性の交流が更に進めば食や農業に根ざした文化を深めることにも貢献するのではないかと考えられる。更には、国外にも視野を広げて、近隣諸国の GIAHS サイトとの連携や、能登コミュニケでも勧告された先進国と開発途上国の間の結びつきについて検討することが望まれる。
- (5) 地域では、鳥獣害対策と竹林の管理が課題となっている。シカの頭数管理については、科学的な根拠に基づき計画的に実施する必要がある。
また、鳥獣害対策における分業体制の構築や若い担い手の育成も重要である。併せて、捕獲したシカやイノシシについては、地域の食文化と結びつけながらジビエ料理への活用を図

ることが重要である。竹林の管理については、資源としての利用を進め、経済性の向上を図りながら里山本来の機能を取り戻していくことが重要である。

2. GIAHS 認定基準に基づく点検・確認結果

(1) 食料及び生計の保障

地域の基幹作物である乾しいたけについては、従来から国内で高い評価を受けているが、経営の更なる安定に向け、地域ブランド認証制度の設立や付加価値創出のための研究等に取り組んでいる。

シチトウイについては、地域ブランド認証制度の設立や外部人材の取り込み等の様々な活動が行われ需要が増え、価値が向上している。

地域資源を観光に活用しようという取組が随所に見られる。また、生活工房とうがらしで取り組まれているような「日常食を非日常化の中で見せる」という発想は、非常に重要であり素晴らしい。今後、外部の目から見た視点を取り入れることも重要である。

(2) 生物多様性及び生態系機能

環境保全や生物多様性の保全に関するシンポジウム等の開催により啓発活動が進められている。

一方で、農業生産活動を通じた生物多様性の保全に関しては、農業の担い手やリーダーが存在することだけで上手くいくとは限らない。今後、大分県や協議会が中心となって、状況を確認しつつ取組を進めていく必要がある。

また、喫緊の課題となっている鳥獣害対策については、対策の根拠となる個体数推定が過小評価となっている可能性がある。本地域の資産価値を守るために、推定方法を見直し、実効性のある鳥獣害対策を実施することが必要である。

(3) 知識システム及び適応

クヌギ林とため池がつなぐ農林水産循環は、水不足の土地をため池で補い農作物生産へ利用する地域における農業システムの根幹であり、全国的にも非常にユニークである。

当該システムは、森、川、海が連関した物質循環の良い事例になっており、今後、この地域の良さを後世にうまく伝えていくことが重要である。また、大学と連携した森と海のつながりに関する研究や学生らによる体験学習など、教育現場を通じて次世代に伝えていく取組等は高く評価できる。

こうした地域の価値に対する理解を更に深めるため、流域ごとに水利用システムの調査研究を行うことも重要である。流域ごとの特徴を景観や育まれた文化と併せて調査することで更なる理解や価値の発見が期待できる。また、GIAHS のインタープリテーション（自然や遺産などを分かり易く人々に伝えること）を工夫していくことも必要である。

椎茸栽培については、大分県等による新規参入者支援や研修等により、人材育成が進められ

ている。

消滅の危機に瀕していたシチトウイ生産については、地域のリーダーとなる者が存在し、都市部のメディア等の活用により I ターン、U ターン希望者を呼び込み、認定以降の生産戸数が増加するなど、一つの成功例といえる。他方、生産戸数の増加にも拘わらず作付面積が増加していない。これは、現行の生産体制の効率の低さが原因の一つであると考えられ、地域の農業システムの本質的な価値を守りつつ機械化等による近代化を進めていくことが望まれる。

地域のシステムにおいては、ため池と耕作の維持が重要であり、ため池管理については、個性が非常に強く、管理者のノウハウが欠けると継承できない。また、耕作の維持については、竹林やツタの繁茂、耕作放棄地の発生が進んでおり、人手不足の印象がある。今後、これらへの対応に力を入れる必要である。

なお、GIAHS の申請書には言及されていないが、地域内の姫島村では、水産物やため池の水配分に係る地元の取り決めが江戸時代から続いており、調査する価値があるように思われることから、これらについても注目していくと良い。

(4) 文化、価値観及び社会組織(農文化)

地域には、伝統的な食材を利用した郷土料理などの食文化が数多く存在しており、生活工房とうがらしなどで進められている継承に向けた普及・啓発の取組は素晴らしい。これら取組を更に広げていくことが重要である。

地域に受け継がれている様々な農耕文化の継承に向け、協議会や大分県等による支援が行われ、企業、NPO 及びボランティア団体等の活動団体の数も増加している。

(5) 優れた景観及び土地と水資源管理の特徴

中世から引き継がれた美しい農業景観を有する田染荘は、ほ場整備を見送り、景観保全を優先した結果残されたものであり、当該景観を活用した地域おこしが行われている。田染荘以外にも、地域には優れた景観が維持されており、いずれの集落においても小河川・水田・民家・林・稜線などが一体となったユニットを見ることができる。

(6) その他

認定地域を巡るウォーキングコースの設定などの地域の自発的な取組が広がり評価できる。

地域が行うモニタリングに当たっては、認定時の申請内容について一つ一つ点検し、保全活動ができているところと、できていないところを明らかにしていくことが重要である。

また、地域が作成しているアクションプランについては、数値目標の設定や地域におけるモニタリング方法のあり方の検討などを進めることが重要である。